

5月、東京・西麻布のポルトガル大使館にジルベルト・ジェロニム大使を訪ねました。今年8月の種子島鉄砲まつりにぜひご来島をと招待したところ、大使は快諾のうえ、2025年の大阪・関西万博のパビリオン展示を種子島でも紹介したいとの提案がありました。

万博のポルトガルパビリオンでは海や航海にちなんだ展示がなされましたが、その一部として帆船のロープなどが大使館1階で紹介されています。そこでマスコットの「ウミちゃん」に会いました。万博会場で人気者になったのですが、人が入れる着ぐるみが玄関で来館者を迎え、愛くるしい表情で和ませてくれます。タツノオトシゴがモチーフで、背中などにアズレージョの模様が入っているのが特徴です。

アズレージョは、ポルトガルの文化である装飾タイルの芸術です。「アズール（青）」一色で風景や人物を描いたり、イスラム文化の影響を受けた幾何学模様、花や動物の柄、貴族などの紋章、歴史的な物語の絵画をあしらうなどして、時代を超えて親しまれています。建築やインテリアの装飾はもとより、衣料品、雑貨、食品パッケージ、ファッションなどさまざまな用途に使われ、ポルトガル文化の象徴といえます。

ポルトガルと種子島は16世紀の鉄砲伝来の縁で、姉妹都市盟約（ヴィラ・ド・ビスポ市と西之表市、1993年）も結んでいます。現代につながる交流のあり方としてアズレージョの活用もありそうです。

九州市長会が開かれた那覇市で琉球文化の薫りをたたえる、かりゆしウェアの清々しさを眺めながら、種子島だったらポルトガル風がいいかもしれないと思いました。



▲ウミちゃん、ジェロニム大使と